

カリフォルニアの風（10月号）

季節の変わり目を迎えました。

先日、幼小部サンフランシスコ校では運動会、サンノゼ校では秋祭りがありました。

運動会では、だれもが「一生懸命に取り組む」という姿が、一日中見られました。

走った後のさわやかさ、団体競技での負けた悔しい涙、勝ち負けを越えて協力し合えた喜びの涙。きっとみなさんは、結果がどうあれ一生懸命にやることによって、からだから「何か」を感じたのではないのでしょうか。また「何か」があふれ出てくるのを体験したのではないのでしょうか。

それは、秋祭りに参加しているみなさんにとっても、同じではありませんでしたか。

こま回しに夢中になったり、紙飛行機づくりに一生懸命になったり、お友だちのけん玉の見事な手さばきに、「自分も！」と挑戦したり。

運動会でも秋祭りでも、できるできないには関係なく、一生懸命に取り組んだ体験を通して、感じたことを、今度、こっそりでいいので聞かせてくださいね。

中高部では、生徒会のみなさんが、リーダーシップを発揮し、学級委員さんと連携協力して生徒会行事を進めているというお話を伺っています。一生懸命さが伝わってきます。学年、学級を越えて協力したり、よりよく交流したり、協働して目標の実現をしたりしようとしている中高部のみなさんにエールを送ります。

さて、4校すべてのみなさんにお話しします。

後期に入り、季節も変わり、お友だちのことや先生のことよくわかるようになり、今は充実しているとも言えるし、あれこれ悩むことも出てきているのではありませんか。

私は、この10月号を仕上げるにあたり、「一生懸命」という言葉を何度も入れています。

そこで、みなさんに尋ねてみたいと思います。

「一生懸命に取り組んだ先には、どんなよいことが待っていると思いますか？」。

早速手を挙げ答えようとしているみなさんの姿が想像できます。私の考えを先に伝えますね。私は、一生懸命に取り組んで感じた「何か」が積み重なったとき、小さな「勇気」が生まれると思っています。その「何か」は人によってちがうので、あてはまる言葉は見つかりませんが、「達成感」という言葉でくくられる方は見えます。仮にその「何か」を達成感と考えたとき、その積み重ねは、小さな勇気というよりも「自信」を生むことになるかもしれません。「小さな勇気」、「自信」を持つと、何となく心に火が点いたようになります。その時に、興味があるものに出会うと、一気に行動し始めるようになるとと思っています。

この内容を読んで、あなたが「何か」を感じてくれたら、今しなければならないことに「一生懸命」取り組んでみてください。きっとその姿を見られたお家の人は「エネルギーをもらった！」とお話されれると思います。なぜなら、あなたは両親から命を授かったときに、両親の願いがこもった「将来への可能性」をもらっています。その可能性の「芽」が、「いよいよ出てきたぞ！」と思われるからです。

これから、その芽がすくすくと育ち、大きく成長していくことを心から願っています。

保護者の皆様へ

運動会に秋祭り、皆様のご協力に、深く、深くお礼申し上げます。

おかげさまで、お子さんに「一生懸命取り組む」という望ましい体験をさせることができました。ありがとうございました。その後のお子さんたちの様子を、一つ紹介します。

それは、運動会が終わって、一週間経った全校朝会での出来事です。

そのときの一人ひとりには、勝敗の結果に喜憂する気持ちはすでにありませんでした。

むしろ、カリフォルニアの風でそれらを吹き飛ばしてきたかのような清々しさがありました。そのお子さんたちに向け、「すばらしい運動会でした。頑張った自分をたたえよう」と伝えた後、「どうして頑張ることができたのだろうか」と問いかけました。早速手が挙がりました。

「(計画してくれた)先生や、(手伝ってくれた)お家の人のおかげです！」

それを聞いて、お子さんたちが、ともに歩んでくれているお家の方に感謝の気持ちが伝えられる「将来の大人」に育っていると思えました。改めまして、日ごろより、補習校の活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、先月末に、去る5月に実施いたしました学力検査の結果「お知らせ」を、検査対象学年の保護者の皆様へ配付いたしました。今回この紙面をお借りし、すべての保護者の皆様へ「本校の大まかな傾向」と「今後について」をお知らせいたします。

1 大まかな傾向

本校の学力を全国標準と比べました。その結果、

- ▶ 「よかった (全国正答率を上回ったまたは近い結果となった)」学習内容は、
国語が「話すこと・聞くこと」、算数・数学では「数と計算・数と式」でした。一方、
- ▶ 「がんばってほしい (全国正答率から課題となった)」学習内容は、
国語が「伝え合うこと」「漢字を書くこと」で、算数・数学は、「変化と関係」「関数やデータの活用」でした。

2 今後について

そこで、以上の大まかな傾向を踏まえ、今後は、次のことに取り組んでまいります。

① 「よかった学習内容」から

小・中学部ともに、「話すこと・聞くこと」「数と計算・数と式」がよくできていました。これは、お子さんが、授業中、先生の話をよく聞きながらイメージを広げていく力を身に付けていること、また日本語によるコミュニケーションを大切にしようとしていること、さらに家庭でも音読や計算練習に一生懸命取り組んでいることによる成果と考えています。引き続き、家庭学習と連携し、「よかったところ」がさらに伸びるよう努めてまいります。

② 「がんばってほしい学習内容」から

オンライン授業から対面授業に切り替わり、先生たちは「文章を整える、工夫して書く」というアドバイスや、「変化のようす」について説明したり話し合ったりする学習を、同じ場所のできるようになりました。そのことにより、お互いの文章を見せ合い、感想や意見

を伝え合い、よいところを見つける学習もできるようになりました。対面授業のよさを生かした授業づくりに取り組み、課題が少しでも解決できるよう取り組んでまいります。

③ 「体験」から

お子さんは毎日いろいろ新しいことに出会い、自分なりに何か発見した喜びを感じています。そういう喜びをいっぱい体験させてあげたい。そこで、例えば、身の回りにある牛乳パックやお菓子の箱などを切り開かせてみると、切るところによっていろいろな形の展開図になることに気付き、自発的に何かを発見するような体験ができるとよいと思っています。その時、お家の方も一緒になってお子さんの発見を喜んでいただきたいと思います。

④ 「家庭学習の充実」から

学校は、日本語によるコミュニケーションを中心に、読み・書きを通して日本語の語彙を増やす、計算練習を継続的に取り組むなどの学習習慣を身に付けさせることに努めています。ご家庭でも、日本語による会話や読書の時間などを十分に設けていただき、日本語環境をより一層充実していただきたいと思います。

以上です。ご家庭でお役立ていただけましたら幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

今月号は、以下の紙面をお借りし、これまでにお寄せいただきました「カリフォルニアの風」についてのご感想を、一部紹介させていただきます。

☆ 「6月号」について

「お子さんを話し上手に」が強く印象に残りました。幼稚園の子を指導していると、すごく話してくる子、ほとんど話さない子、いろいろいます。話してくる子の話はできるだけ聞いて伝え返してあげる。話してこない子にはできるだけこちらから声をかけて少しでも会話することを心がけています。コミュニケーションには、浄化作用、気にかけてもらっている安心感など、たくさんの重要な要素が凝縮されて詰まっている気がします。寄稿文を読み、時間に追われる非常に忙しい現代だからこそ、気を付けないと流れてしまう会話の重要性を改めて認識しました。(東京都在住。初任校での元生徒様より)

☆ 「7・8月号」について

貴重な学びの時間をいつもありがとうございます。日本にいましたときは、子どもたちが小学生で、校長先生から直々に、保護者に向けた具体的なアドバイスをいただくことはありませんでしたので(しかも毎月)非常にありがたいと心から思います。(中略)日本の教育現場で長くご経験された校長先生のお言葉で、カリフォルニアにいる子どもたちの優れている点(非認知能力のお話)をお聞きできることは非常に説得力がありますし、海外で子育てをする保護者として、なるほどそうなんだなあとしん新しい気付きになり、とてもありがたいです。今月号の「新発見ごっこ」、ぜひやってみます。そうあるためにはどうしたらよいのか、具体的な方法を教えていただけることは保護者のみなさまにとって、非常に有意義でありがたいことではないでしょうか。(本校の保護者様より)

☆ 「9月号」について

「本ごはん」、とても素敵な言葉ですね。(中略)通常、子どもが何か楽しいことをしなけ

れば、と思いますと、すぐに「直接体験」に結びつけてしまっていることに気づかされました。読書の秋として、子どもと一緒に「間接体験」を楽しんでみたいと思います。普段はあまり本を読まない子どもたちですが、自分で選んで買ってきた本（古本市で）ならば、いつもより読む気が出るのではないかと期待しております。（本校の保護者様より）

☆ 「カリフォルニアの風」について

先生がこれまで体験し、経験してきた多くの知見は、子どもを育てることに悩んでおられる保護者の誰かに一つの明かりを与えて、心の糧となることは間違いないと思います。体験、経験による信念ほど強いものはなく、そこで得た知識は読んで感じる人には強く響くのではないのでしょうか。これまでの先生のお姿を遠くから見せていただいている、先生の感じた思いをどこかで発信して見られたらと思ったこともあります。

（福岡県在住。教育研究員時の元大学教授様より）

お寄せいただき、ありがとうございました。寄稿する度、子どもたちや保護者の皆様の期待に応えられる内容には程遠く、力不足を痛感しております。頂戴いたしましたご感想を励みにしてまいりたいと思っております。改めまして、ありがとうございました。